

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ  
川崎市外国人市民代表者会議  
だい き だい ねん だい かい だい にち  
(第9期 第2年 第1回 第1日)  
ぎじろく  
議事録

1 日時 2013(平成25)年4月21日(日)午後2時～5時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 22人

うー ちゆん おう ゆうしん やん いー わん びん あん よんいる こん みるすく ちま さん ぼく ちゃん ほ、  
シャルマ ガジエンダー、ケオパサアト ラツアミチャン、ガン リョンイン、  
なかだ しりわん、ぐえん ごく ぼお りん、ほうむら かれん ういるふりだ、せぬー  
ジョアキム、柳澤 アンナ、コロンツィ カロル、園田 泉 ベアトリス、生出  
オリエッタ、エドモンド ダンカン、シフケン ブランドン、チャート デビト

(2) 事務局

かとう きよくちよう よこやま しつちよう いがらし たんとうかちよう いしかわ たんとうかちよう むかい かちよう ほき、  
小田切 担当係長、北爪 職員、高野 職員、小山内 職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 10人

5 会議次第(公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

【全体会】

わんびんいんちよう  
王平委員長「それでは、これから2013年度第1回の第1日の川崎市外国人市民  
だいひょうしゃかいぎ かいさい  
代表者会議を開催する。本日は、シャヒンさん、中村さんとサルヴィオさんか  
ら欠席の連絡をいただいている。机上配布した資料にあるように、4月15日

にわたしと社会生活部会長のチャート・デビトさんで市長報告を行った。阿部市長からのコメントも記載してある。裏面には、翌々日の神奈川新聞と東京新聞に掲載された記事があり、外国人代表者会議のPRができたと思う。それでは、事務局から説明をお願いします。」

(事務局横山室長から職員の異動に関する連絡・紹介)

加藤局長「前任は建設緑政局というところにおいて、道路をつくったり公園をつくったり、その維持管理をしたりという仕事をしてきた。現在、日本全体では人口が減少する中で、川崎市市の人口はどんどん増えている。今、市内の人口は144万人で、この中に外国人市民の方が約2%の2万9,000人いる。2010年には3万2,000人の外国人市民の方がいたので、若干減っているとはいうものの、現在でも120の国、地域の方々が暮らしている。この外国人市民代表者会議は、地域社会の一員である外国人市民の方々からさまざまな意見を伺い、市政に生かしていくという目的で1996年に条例で設置された。こういった会議で外国籍の方達から色々な意見を出してもらい、市政に生かしていくということは、非常に大事だと考えている。」

王平委員長「ありがとうございます。4月1日から新しいメンバーで、我々と残り1年を頑張っていきましょう。続いて、事務局から今日の日程と配付資料について確認と説明をお願いします。」

(事務局向井課長補佐が配布資料について説明)

王平委員長「続いて、前回会議のまとめを事務局からお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき前回会議のまとめを報告。)

王平委員長「前回会議のまとめについて、何か意見、質問はあるか。」

セヌー委員「確認だが、報告書の中にも去年行ったオープン会議でいろいろな意見をもらったとあるが、それをふまえてどうやって提言として出すのかというのは、これからこちらで審議していくということでもいいのか。」

王平委員長「オープン会議ででた意見は、取り入れられるものは各部会で審議して、最終的に提言としてまとめていく。」

セヌー委員「わかりました。」

王平委員長「それでは、議事に入る。まずは、代表者の補充について、事務局から説明をお願いします。」

(事務局向井課長補佐から代表者の補充に関して説明。)

王平委員長「代表者の補充について、何か意見もしくは質問はあるか。」

チャート部会長「もう1年間がたち、残りの審議期間は短く、テーマも限られているので、これから新しい人が代表者会議に参加しても、審議に十分に参加できるかどうか心配なので、少しかわいそうかと思う。」

朴委員「委員に立候補された方のなかで補欠の方がいると思う。もし意識の高い方がいるならば、私は問題ないと思う。」

園田部会長「私もチャートさんと同感だ。やはりあと1年しかないということで、これまでまとまったことを、その流れがわからないと、新しく入ってくる方は中途半端になってしまい本気で参加できないと思うので別に埋めなくてもいいかなと思う」

呉委員「私もチャートさんと同じ意見で、過去1年の説明をまた一からしなければいけないし、この会議に慣れるまでやはり若干時間がかかるので、やっと慣れたところでまとめなければいけないとなると、ちょっと大変かなと思う。」

王平委員長「ほかに何か意見か質問はあるか。（なし）。それでは、代表者の補充について、補充が必要と思われる方は手を挙げてください。」

（賛成12名）

王平委員長「それでは過半数を超しているので、補充するという事になった。続いて、行事の参加について、事務局から説明をお願いする。」

（事務局北爪職員が資料2に基づき行事の参加について説明。）

王平委員長「行事の参加について、何か意見または質問はあるか。」

セヌー委員「インターナショナル・フェスティバルというのは、初めてか。」

事務局向井課長補佐「代表者会議の方は、まだ今まで参加したことはない。参加するとしたら初めてだ。」

チャート部会長「まず、開催場所は国際交流センターとなっているので、インターナショナル・フェスティバルに来る方はこの場所がわかるし、ここに来られるので、代表者会議にも参加することができると思う。インターナショナル・フェスティバルの規模も1万5,000人ぐらいとなっているので、代表者会議のPRとして良い機会ではないかと思う。」

王平委員長「では、今の行事の参加について、まずかわさき市民祭りについて、参加に賛成する方は手を挙げてください。」

（賛成22名）

王平委員長「次に、インターナショナル・フェスティバル in カワサキ、こちらも参加に賛成する方は手を挙げてください。」

( 賛成 22 名 )

王平委員長「続いて、実行委員会等について事務局から説明をお願いする。」

(事務局向井課長補佐が資料3に基づき実行委員会について説明。)

王平委員長「今の説明について、何か意見、質問はあるか。」

柳澤委員「インターナショナル・フェスティバル in カワサキはもうすぐだが、市民祭りと内容が非常に似ているので、市民祭り委員会が合わせてやっていただければいいかと思う。」

王平委員長「では、2つ案がありまして、1番の案は全員でインターナショナル・フェスティバル in カワサキをやる、もう1つの案は市民祭り実行委員会の中でやるということで、1番の案の全員でやるのに賛成する方は手を挙げてください。(10名)。

2番の案の市民祭り実行委員会の中でやることに賛成する方は、手を挙げてください。(11名)。どちらも過半数に達していないので、もう一度決をとりたい。まず、1番の案の全員でやるというのに賛成する方は手を挙げてください。(9名)。次に、2番の案の市民祭り実行委員会の中でやるに賛成する方は、手を挙げてください。(12名)。では、実行委員会の中でやるということに決定ということになる。

続いて、実行委員会を立ち上げるということに賛成する方は手を挙げてください。(全員挙手)。次に、全員がどれかの実行委員になる案に賛成する方は手を挙げてください。(全員挙手)。(それぞれの実行委員会ごとに希望者が挙手)。本日は、3名の欠席者がいるので、その3名に確認をして、最終的に調整したいと思うがよろしいか。(異議なし)。では、事務局には3名の希望の確認をお願いする。それでは、部会審議に入る。」

### 【福祉教育部会】

園田部会長「それでは福祉教育部会を始めたい。まずは事務局から資料の説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料4-3、4-4について説明。)

園田部会長「では、今日は以前から話し合っている母語教育について教育委員会の岡崎主任に説明をいただく。」

(岡崎主任が資料4-2に基づいて説明。)

ケオパサート委員「1年ごとに成果を見て、成果があまり見られない場合は、活動を

やめさせる場合もあるのか。」

岡崎主任「市民館のほうで、活動をもうやめなさいなどといったことは一切言っていない。もともと1年計画で出してもらい、1年間でまとまるように職員が相談に乗りながら一緒にやっている。年数を区切っているのは、1つの団体や1つの提案についてのものだ。例えば母語教室でいえば、母語教室に参加した子どもたちの親が、では自分たちが別の方法でやってみようかという提案があれば、母語教室自体は何年でも続くことはあり得る。ただ、1つのグループが何年も同じことを繰り返しやるといふ事業ではないので、そこのところは理解してもらいながら、進めている。」

王平委員長「母語教育として活動をして、最終的に独自の事業として自立したものはあるのか。」

岡崎主任「母語の教育に関係したグループは、この10年間で1グループだけだ。」

仲田委員「私は市民館の3グループに日本人と一緒に参加しているのが、もし日本人の参加していない外国人グループだけの場合、提案書を作成するのに言葉の問題がある。」

岡崎主任「やはり初めての人には、どう自分の思いを文字にしたらいいかというのは、難しいところだと思う。企画提案をしたいが具体的にどうしたらいいのかわからないという人については、1から市民館の職員が相談に乗る。どういう形に提案をまとめたら説得力があるとか、そういうところから相談に乗るようにしている。外国人の方の提案も幾つもある。」

セヌー委員「この間、ほかの皆さんとふれあい館のダガットクラブに行った際に聞いたのだが、母語教育を個人あるいは団体でやるというのは難しい。できるだけ市でやってもらえるとありがたい、という意見があった。もう1つ、子どもだけではなくて、母語に困っている母親たちもいるらしいので、できるだけ親子一緒に授業を受けられるとよいという意見もあった。そういう2つの意見を聞いたので、教育委員会としてどういう見解があるのか聞きたい。」

岡崎主任「確かに課題としては認識している。市の全体のいろんな計画の中で、教育についても、計画に基づいて事業化しているというのがある。今、教育委員会として行っているのは、ふれあい館での主催事業2本のみになる。」

園田部会長「現在、外国人が日本に入ってくる1つのブームはちょっと過ぎていると思うのだが、それでもまだ保護者が母語教室を探すということは多いのか。」

岡崎主任「学校教育の現場ではあるのかもしれないが、生涯学習推進課への問い合わせ

せとしては来ない。外国人の方からの問い合わせでは、日本語学級はどこにありますかというのが圧倒的に多い。」

園田部会長「ほかになければ、これで終わりにしたいがよろしいか。（なし）」

改めて何か質問があれば、また事務局に言っていただきたい。

では引き続き、この間、視察に行ってもらった感想を、行った方たちに一言ずつお願いしたい。」

ケオバサアト委員「ふれあい館でフィリピン語の教室に行ってきた。楽しいこともいっぱいありましたし、指導をしている方は大変ハードだなど、改めて思った。」

朴委員「やはり言葉が分からないがために、ぶつかってしまう。日本語が話せないからといっていじめを受けて、その方がやはり卑屈になってしまっていて、非行に走ってしまうとか、そういったことが自分の身近でもあるのだなということも改めて痛感した。」

セヌ一委員「例えば両親が二人とも外国人の場合と、母親が外国人、あるいは父親が外国人の場合は、子どものアイデンティティがわかりにくい。2つの文化を持っている子どもの気持ちがわからないと、問題の解決までは至らないのではないかと思った。例えば、子どもに国籍を聞いたら、日本で暮らしているからもう自分は日本人だという感じもある。なので、母国語や文化を学ばせることに対して、子どもがどう思っているのかというのは、大事なのではないかと思う。」

法邑カレン委員「例えば結婚して離婚した母親とか、シングルペアレントの子どものケースが大変だと感じた。シングルマザーとか、シングルファザーの子どもの応援してあげないといけないのではないかと思う。」

園田部会長「時間が迫ってきているのでまとめに入りたい。次回は、母語教育は確認だけして、議題としては異文化交流について議論したい。」

事務局高橋専門調査員「母語教育は確認だけ、議題としては異文化交流を中心に議論されるということによろしいか。では、異文化交流のほうで何か必要な資料というのはあるか。あれば挙げていただいて、今すぐに思いつかなければメールなどでいただければ、また相談をしながら用意させていただくことにしたい。」

朴委員「資料4-4にある、さくら小学校、桜本中学校、橘高校でどういった活動をしているのか、パンフレットのようなものがあれば用意していただきたい

い。」

園田部会長「ほかになればこれで終わりにしたいが、よろしいか。（なし）それでは、以上で福祉教育部会を閉会する。」

### 【社会生活部会】

チャート部会長「社会生活部会を開催する。まず、前回のまとめを事務局から願うする。」

（事務局向井課長補佐が資料1に基づき説明。）

チャート部会長「前回のまとめについての発言、意見、補足などはあるか。」

孔委員「企業の誘致と社会貢献については結局審議しないことになったが、代わりに、新しい別のテーマについて審議するといったことはするのか。」

チャート部会長「新たなテーマについて審議するには時間がない。それでよろしいか。」

孔委員「わかりました。」

チャート部会長「今日は情報伝達と提言への取組の評価についての審議を中心に行いたい。まずは、情報伝達について事務局から資料の説明を願うする。」

（事務局向井課長補佐が資料5に基づき説明。）

チャート部会長「何か質問などはあるか」

孔委員「サンキューコールは、一応英語で問い合わせできるはずだが、ほかの言語もあるのか。」

事務局向井課長補佐「日本語のほかには、英語だけだ。」

孔委員「そうしたら、問い合わせできる人は日本語ができるか、英語ができる人ということになる。そうすると、何かを聞きたいけれど、日本語もちゃんとできない、英語も余りできない、という場合は、サンキューコールはあまり役に立たないのかなと思う。」

呉委員「例えば、日本語と英語でしか問い合わせができない、あるいは閲覧しかできないとしたら、多分、私自身の場合は、電話をするよりホームページを見る。日本語もできなくて、英語もそんなに得意でない人は電話をしない。できれば、いろいろな母国語で会話ができるような、そういうコールセンターがあればいいのだけれども、それは多分、コストもかかるし、整備するのも大変なので、ホームページを充実させる方が確実かなと思う。」

柳澤委員「ホームページのFAQの部分なら翻訳もすぐにできるのでは。」

コロナツイ委員「前回言ったことの繰り返しになるのだが、情報自体がないとか、現状では解決方法がない場合、そこからどうやって困っている人を助けるのかといった話をしないといけないのでは。」

シャルマ副委員長「多分、コロナツイさんがおっしゃっているのは、要は、いろんな問い合わせの中の、解決できない問題については、どうなっているかということではないか。」

呉委員「例えば、コールセンターに電話をして『すみません、できません』という回答が来るかもしれないけど、一方で、コールセンターでは、こういう問い合わせがあったが市の方では現状は対応できなかったというデータが蓄積し、ある程度のニーズが集まったら、それに対してまた何か次の動きが出てくるのではないかと思う。」

コロナツイ委員「本当に蓄積されているかどうかは現状ではわからないので、その部分について知りたい。」

シャルマ副委員長「事務局に2つお願いをしたい。まずは、回答ができないものに対して統計をとって、それに対してアクションがとれているかどうか。もう1つは、英語でのコールは全くないのか、それとも少ないのか。」

事務局向井課長補佐「非常に少ない。」

ガン委員「全般的に、やはり言葉の問題が一番難しいのではないかと思う。ですが、その本人が本当にどこまで困っているかということも問題だと思う。例えば、大体、日本に来る外国の方というのは仲間がいるか、もしくは友達とかがいる人が多い。ちょっとした困っていることは、友達とかを通して何かしらの手段で解決に辿り着く方法があるのではないかと思う。なので、困っている人がどういう言葉だったら分かるのか、という言葉の問題まで予測することは不可能に近いのではないかと思う。ですから、例えば統計を見ながら、こういった問題に一番問い合わせが多いかをもとに考えていった方がいいのではないかと思う。」

柳澤委員「何かに困るとしたら、日本も、ロシアも、ほかの国でも同じだと思うが、市は本当に身近なことしかやってくれない。その後は、とりあえず自分でお金を出せば何とかなるということになる。」

チャート部会長「確かにそうだ。市にできることには限度がある。」

安委員「結局、市の行政サービスというのは申請主義だと思うので、それを理解しないといけないのかなと思う。それは結局、日本人も同じだと思う。」

チャート部会長「ニーズを把握するのは、市の行政の方では難しい。事務局への依頼としては、サンキューコールでその場で答えられない質問があった場合、どういうふうにフォローしているのか。答えがわからない場合と、答えが『それはできない』という場合の両方について聞きたい。それと、その問い合わせをした人へのフォローだけではなくて、制度として、そのニーズが行政にフィードバックされる方法があるのか、あるならば、どういう風になっているのか調べてほしい。

次に、提言への取組に対する評価についての審議に移りたい。確認をすると、過去の提言の内容について、今、評価をすることではない。どうやって制度に取り入れて、定期的に評価するか、あるいは、するべきかどうかについて審議したい。今回はその方法についてももう少し詳しく検討したい。」

安委員「代表者会議自体が、もう16、7年の歴史があって、過去に10回の提言を出している。その間、世の中も変わってきているので、過去の取組状況と評価を見て、A評価だったんだけど、今現在としては実際にはB評価ではないか、といったことを取り上げないとだめなのではないか。」

柳澤委員「全部整理して、もうできている分、もう必要がない分、といったことはやらないといけない。そして、まだできていないものがなぜできていないのか、どういう条件を満たせばできるか、といったことを考えなければいけないのでは。」

チャート部会長「過去の提言は41ページ分あるので、全てを審議するためには4回ぐらい、つまり1年の半分ぐらいかかる。」

コロンツイ委員「例えば、提言への取組に対する評価の実行委員会みたいなものを設けるのはどうか。」

呉委員「提言への取組に対する評価というのは、代表者会議の継続課題として残していくことも重要なことと思う。」

チャート部会長「この再評価が制度化して代表者会議の通常運営の一部にならないと意味がないので、どうやって持続可能な制度をつくるかが課題になると思う。その場合、過去の代表者がたとえば実行委員会の会議に入って話し合うことができるか、制度上問題にならないかということがある。」

呉委員「私は、あくまでも、今、代表者をやっている人たちが議論をするのが、この代表者会議だと思うので、必ずしも過去のメンバーを連れてくる必要はないと思う。例えば、メールをしたり、会って話をしたり、その意見を聞いて、

それを<sup>じっこういんかい</sup>実行委員会に<sup>はんえい</sup>反映する<sup>かたち</sup>形がよいのではないか。」

コロンツィ委員「例えば、オープン会議<sup>おーぶんかいぎ</sup>みたいなものはどうだろうか。」

チャート部会長「制度上<sup>せいどじょう</sup>は、臨時会<sup>りんじかい</sup>でOB、OGを呼んで<sup>よ</sup>提言<sup>ていげん</sup>への<sup>とりぐみ</sup>取組に対する<sup>さい</sup>再<sup>さい</sup>評価<sup>ひょうか</sup>について<sup>しんぎ</sup>審議<sup>しんぎ</sup>をすることは<sup>かのう</sup>可能<sup>か</sup>だ。かなり<sup>ぐたいてき</sup>具体的な<sup>あん</sup>案<sup>あん</sup>になってきたが、そろそろ<sup>じかん</sup>時間<sup>じかん</sup>だ。最後に<sup>さいご</sup>ほかに<sup>い</sup>言いたい<sup>こと</sup>ことはあるか。(なし)ないようなので、<sup>しゃかいせいかつぶかい</sup>社会生活部会<sup>へいかい</sup>を閉会<sup>へいかい</sup>する。」

## 【全体会】

王平委員長「全体会<sup>ぜんたい</sup>を再開<sup>さいかい</sup>する。まず、それぞれの<sup>しんぎないよう</sup>審議内容<sup>しんぎないよう</sup>について<sup>ほうこく</sup>報告<sup>ほうこく</sup>をお願いする。」

園田部会長「今日は、<sup>しみんじしゅきかくじぎょう</sup>市民自主企画事業<sup>きょういくいんかい</sup>について、<sup>おがさきしゅにん</sup>教育委員会<sup>おも</sup>の岡崎主任<sup>おも</sup>から<sup>しりょう</sup>資料<sup>しりょう</sup>4-2に基づいて<sup>せつめい</sup>説明<sup>せつめい</sup>を受け、<sup>みな</sup>皆さん<sup>ぎもん</sup>からの<sup>しつもん</sup>疑問<sup>しつもん</sup>や<sup>こたえ</sup>質問<sup>こたえ</sup>についても<sup>ご</sup>答<sup>ご</sup>えていただいた。その後、3月<sup>がつ</sup>に行った<sup>しきつ</sup>視察<sup>しきつ</sup>について、<sup>さんか</sup>参加<sup>さんか</sup>された<sup>かた</sup>方<sup>かた</sup>の<sup>いけん</sup>意見<sup>いけん</sup>や<sup>かん</sup>感じた<sup>かん</sup>ことを<sup>はな</sup>話<sup>はな</sup>した。最後に、<sup>いぶんかこうりゅう</sup>異文化交流<sup>しりょう</sup>について<sup>か</sup>資料<sup>か</sup>の<sup>こと</sup>こと<sup>だけ</sup>だけ<sup>かくにん</sup>確認<sup>かくにん</sup>して、<sup>ぐたいてき</sup>具体的な<sup>しんぎ</sup>審議<sup>しんぎ</sup>については<sup>じかい</sup>次回<sup>じかい</sup>することとした。」

王平委員長「同じ部会<sup>おな</sup>から<sup>ぶかい</sup>何か<sup>なに</sup>補足<sup>ほそく</sup>があれば<sup>ねが</sup>お願い<sup>ねが</sup>する。(なし)。では、<sup>つづ</sup>続<sup>つづ</sup>いて<sup>しゃかいせいかつぶかい</sup>社会生活部会<sup>ほうこく</sup>の<sup>ねが</sup>報告<sup>ねが</sup>をお願いする。」

チャート部会長「今日は、2つの<sup>て</sup>テーマ<sup>て</sup>について<sup>しんぎ</sup>審議<sup>しんぎ</sup>した。まず、<sup>じょうほうでんたつ</sup>情報伝達<sup>じょうほうでんたつ</sup>についての<sup>しんぎ</sup>審議<sup>しんぎ</sup>を進<sup>すす</sup>めて、そして、<sup>か</sup>過去の<sup>ていげん</sup>提言<sup>ていげん</sup>への<sup>とりぐみ</sup>取組<sup>とりぐみ</sup>に対する<sup>さい</sup>再<sup>さい</sup>評価<sup>ひょうか</sup>についても<sup>しんぎ</sup>審議<sup>しんぎ</sup>した。<sup>じょうほうでんたつ</sup>情報伝達<sup>じょうほうでんたつ</sup>では、<sup>さんきゅーこーる</sup>サンキューコール<sup>ほ</sup>や<sup>む</sup>ホームページ<sup>む</sup>上の<sup>ほう</sup>FAQ<sup>ほう</sup>の<sup>とうけい</sup>統計<sup>とうけい</sup>を見て、<sup>なに</sup>何が<sup>じゅうよう</sup>重要な<sup>て</sup>テーマ<sup>て</sup>になるか<sup>はなし</sup>ということについて<sup>はなし</sup>話を<sup>はなし</sup>したり、FAQは<sup>たげんご</sup>多言語<sup>たげんご</sup>で<sup>けいさい</sup>掲載<sup>けいさい</sup>されているか<sup>かくにん</sup>どうかを<sup>かん</sup>確認<sup>かん</sup>したり、<sup>さんきゅーこーる</sup>サンキューコール<sup>にほんご</sup>は<sup>にほんご</sup>日本語<sup>にほんご</sup>と<sup>えいご</sup>英語<sup>えいご</sup>だが<sup>えいご</sup>英語<sup>えいご</sup>の<sup>けんすう</sup>件数<sup>けんすう</sup>が<sup>ひじょう</sup>非常に<sup>すく</sup>少ない<sup>すく</sup>ので<sup>どう</sup>どう<sup>したら</sup>したら<sup>いい</sup>いいか、<sup>い</sup>といった<sup>こと</sup>ことを<sup>はな</sup>話<sup>はな</sup>し<sup>あ</sup>合った。

<sup>ていげん</sup>提言<sup>ていげん</sup>の<sup>とりぐみ</sup>取組<sup>とりぐみ</sup>の<sup>ひょうか</sup>評価<sup>ひょうか</sup>については、<sup>じっこういんかい</sup>実行委員会<sup>じっこういんかい</sup>を<sup>もう</sup>設<sup>もう</sup>けて、<sup>その</sup>その<sup>じっこういんかい</sup>実行委員会<sup>じっこういんかい</sup>で<sup>たと</sup>例<sup>たと</sup>えば<sup>か</sup>過去の<sup>かいぶん</sup>3回<sup>かいぶん</sup>分の<sup>ていげん</sup>提言<sup>ていげん</sup>を<sup>さい</sup>再<sup>さい</sup>評価<sup>ひょうか</sup>する<sup>さい</sup>といった<sup>あい</sup>アイ<sup>あ</sup>ディア<sup>あ</sup>が<sup>で</sup>でた。<sup>じかい</sup>次回<sup>じかい</sup>は、<sup>じょうほう</sup>情報<sup>じょうほう</sup>と<sup>ていげん</sup>提言<sup>ていげん</sup>への<sup>とりぐみ</sup>取組<sup>とりぐみ</sup>に対する<sup>ひょうか</sup>評価<sup>ひょうか</sup>について<sup>しゅうしょくしえん</sup>まと<sup>しんぎ</sup>めて、<sup>しゅうしょくしえん</sup>就職支援<sup>しんぎ</sup>について<sup>しんぎ</sup>審議<sup>しんぎ</sup>する<sup>つも</sup>りだ。」

王平委員長「同じ部会<sup>おな</sup>から<sup>ぶかい</sup>何か<sup>なに</sup>補足<sup>ほそく</sup>意見<sup>いけん</sup>があれば<sup>ねが</sup>お願い<sup>ねが</sup>する。」

仲田委員「サンキューコールは、<sup>そうだん</sup>どんな<sup>そうだん</sup>ことを<sup>そうだん</sup>相談<sup>そうだん</sup>できるのか。」

チャート部会長「原則<sup>げんそく</sup>として、<sup>し</sup>市の<sup>そうごうまどぐち</sup>総合窓口<sup>そうごうまどぐち</sup>となっている。<sup>ぶかい</sup>部会<sup>げんご</sup>で<sup>ふ</sup>言語<sup>ふ</sup>が<sup>ふ</sup>不自由<sup>ふ</sup>な<sup>かた</sup>方<sup>かた</sup>の<sup>たいおう</sup>対応<sup>たいおう</sup>が<sup>わだい</sup>話題<sup>わだい</sup>になった。<sup>いま</sup>今<sup>いま</sup>の<sup>ところ</sup>ところ<sup>さんきゅーこーる</sup>サンキューコール<sup>にほんご</sup>は<sup>えいご</sup>日本語<sup>えいご</sup>と<sup>たいおう</sup>英語<sup>えいご</sup>で<sup>たいおう</sup>対応<sup>たいおう</sup>し

ており、言語を増やしてもらえたらいいが、限度があるので難しい問題でもある。」

王平委員長「ほかの部会の中から質問や意見はあるか。」

朴委員「川崎区では『インターコムかわさきく』というメールの配信が独自でされているそうだ。こういったメールサービスを川崎区だけではなくて、川崎市全体でやっていただくというのはどうか。それと、提言への取組に対する評価ですが、この会議ももう20年になるので、やはりそれはやっていったほうがいいのではないかなと思う。」

王平委員長「ほかの方は、何か質問、意見はあるか。（なし）最後に、事務局から事務連絡などあればお願いする。」

（事務局向井課長補佐から『川崎市外国籍市民意識実態調査』について説明。）

チャート部会長「一言だけ。まだ調査を実施するかどうかは確定していませんし、質問の表現と詳しい内容は作業部会で専門家の意見を聞きながら決めるが、ぜひ、当事者の外国人市民、特に代表者の意見は調査に反映したいので、項目についての意見があれば、聞かせていただきたい。」

王平委員長「ほかに何かあるか。」

安委員「代表者会議とは直接関係ないのだが、私は朝鮮学校に入れている親として、今回、神奈川県が朝鮮学校に対する補助金を全額カットしたということ皆さんに知っておいてほしい。今、北朝鮮問題で核実験、ミサイル発射実験等が出ているが、政治と子どもの学ぶ権利を結びつけて、補助金をカットするというのは、新たな差別をつくるのではないかと私は思っている。神奈川県、特に横浜市や川崎市は外国人との共生社会を標榜しており、これから未来がある子どもたちに新たな差別を与えてはいけないのではないかなと思う。今回のようなことが子どもたちの反日感情に結びついてしまうのではないかと、少し懸念している。」

王平委員長「それでは、これで2013年度第1回第1日の川崎市外国人市民代表者会議を閉会する。」